

とうきょう すくわくプログラム活動報告書（令和7年度）

施設名 フロンティアキッズ上町

所在地 東京都世田谷区世田谷1丁目30-9

1. 活動のテーマ

色に関する探究活動

〈テーマの設定理由〉

本園は、世田谷区の上町にある定員35名の小規模な認可保育園である。周りを様々な公園や文化遺産に囲まれて、とても良い環境の中保育を行っている。本年度は、幼児クラスを中心にすくわくプログラムを進めた。幼児クラスは、3歳児2名、4歳児5名、5歳児7名の合同で保育を行っている。前年度も幼児クラスを中心にすくわくプログラムに取り組み、「音に関する探究活動」を行った。

子どもらしくユニークな発想をもった子が多く、戸外での活動を喜び、園のすぐ近くにある「天祖神社」で遊ぶことをいつも楽しみにしている。

そんな中、今年度のすくわくプログラムは何について進めたいか子どもたちに問いかけると、「色について調べたい。」という意見が出てきた。そのため、今年度のテーマを『色に関する探究活動』に設定し、活動を進めていった。

2. 活動スケジュール

（1）散歩先で、様々な色を探す活動【2024年4月～2025年3月】

○年間を通して散歩先で様々な色を探し、季節による色の変化などを探究する。

（2）色に関する外国語活動

○講師によるオールEnglishの外国語活動

（3）色探し遠足

○ザリガニ釣り【9月】

○横浜美術館、ピタゴラスイッチ展見学【10月】

○東京農業大学博物館見学【1月】

（4）お店屋さんごっこ【10月】

○保護者の出前授業（プロのお店屋さんのアドバイス）

（5）オリジナルTシャツ作り【1月】

○保護者の出前授業（素敵なイラストを描くアドバイス）

（6）オリジナル劇『いろのきのおはなし』【2月】

○季節による色を劇で表現する活動

（7）アクティブラーニング発表【3月】

○4歳児、5歳児のアクティブラーニング発表

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 様々な場所に多くの荷物を運びながら散歩をすることができるように、大きなリュックを購入した。
- 様々な生き物や植物を観察するための電子顕微鏡を購入した。
- 子ども達の興味が広がるように、色や昆虫の図鑑を準備した。
- 講師招聘の外国語活動を毎週行い、色の探究活動を通して、国際理解も行った。
- 絵の具や画材道具を購入し、子ども達が生き生きと活動を行うことができるようにした。
- 様々な遠足を行い、その際に交通費を使用した。
- 保護者に出前授業に来ていただき、一緒に活動を行った。

4. 探究活動の実践

(1) 散歩先で、様々な色を探す活動【2024年4月～2025年3月】

たくさんの荷物が入るカバンを購入し、園から歩いて行くことができる様々な公園や神社などに色探しの散歩に行った。年間を通して色探しの散歩を行う中で、季節による色の変化などの探究も行った。

また、電子顕微鏡で生き物や植物の観察を行うと同時に、散歩先で発見した幼虫を飼育する活動も行った。

自分たちが育てた幼虫が孵化し、どんな昆虫の幼虫だったのかを発見することができた際には、子ども達は大喜びだった。



(2) 色に関する外国語活動

年間を通して、講師によるオール English の外国語活動を行った。講師が英語で説明をしながら、色をテーマにした製作や、色に関する英語表現に触れる活動に取り組んだ。



(3) 色探し遠足

○ザリガニ釣り【9月】

散歩先で色々な色を探して探究活動を行っている際に、子ども達の中から、「ザリガニ釣りをやってみたい」という意見が出てきた。園の近くを調べたところ、目黒川緑道にザリガニが息するビオトープがあった。区役所や公園の管理事務所に確認をとると、「条件付きで、キャッチアンドリリースならば大丈夫です。」という回答が得られたので、バスに乗ってザリガニ釣りの遠足に出かけた。

ほとんどの子が釣りは初めての経験だったが、多くのザリガニを釣り上げとても良い表情を見せていた。



○横浜美術館、ピタゴラスイッチ展見学【10月】

園でブロック遊びをしている際に、ドミノ倒しのような装置を作り、「ピタゴラスイッチだよ。」と嬉しそうに紹介をしている子がいた。ちょうどその頃に、横浜美術館で「ピタゴラスイッチ展」が行われており、その展覧会を見学しに、遠足に出かけた。

色とりどりの展示が行われており、子ども達は興味津々に見学を行っていた。



園の近くに東京農業大学があり、その博物館が昆虫や恐竜の展示展を行っていた。園で昆虫の幼虫を飼育した経験から、昆虫に興味がある子が多く、展示展の見学に行った。

様々な昆虫の標本や、恐竜の模型、植物園の様子に子ども達は興味を示していた。植物園では、施設の方が植物や生き物の紹介をしてくださり、とても良い活動になった。



(4) お店屋さんごっこ【10月】

○保護者の出前授業（プロのお店屋さんのアドバイス）

10月31日に、乳児クラスの子ども達や職員をお客さんにして、お店屋さんごっこを行った。様々な色合いのジュースやお菓子、食べ物やアクセサリなどを作り、自分たちで作ったお金を渡して、お店屋さんごっこを行った。

その際に、どのような準備を行えばお客さんが喜んでくれるのかをイメージすることが難しかったので、保護者の中で飲食店を経営されている方に出前授業をして頂いた。また実際に経営されているレストランを見学させて頂き、イメージを膨らませるようにした。



(5) オリジナルTシャツ作り

○保護者の出前授業（素敵なイラストを描くアドバイス）

Tシャツに絵を描くことができるペンを購入し、劇に使う衣装を作ることにした。絵を描くことが得意な子が多く、普段から子ども達は生き生きとした作品を作っていた。

保護者の中に、プロのイラストレーターさんがおり、その方に出前授業に来て頂き、素敵なイラストを描くアドバイスを頂いた。

子ども達それぞれの似顔をスラスラと5分ほどで描く様子も見せてくださり、子ども達はいっそうやる気を持ってTシャツ作りに取り組んでいた。



(6) オリジナル劇『いろのきのおはなし』【2月】

○季節による色を劇で表現する活動

年度のまとめとして、四季を色で表現するオリジナル劇作りを行った。様々な色の絵の具を使い、モチーフの『いろのき』作りも、子ども達全員で行った。

劇の主題歌は担任が作り、春は「チューリップ」。夏は「すいかの名産地」。秋は「虫のこえ」。冬は「ゆき」という童謡を子ども達自身が選曲し、劇づくりを行った。

また、4つのチームに別れ、それぞれのチームが一つずつの季節を担当し、年長が中心となって台詞作りも担任と一緒にやった。

子ども達それぞれが良い表情を見せながら練習や準備に取り組み、発表の場では堂々と演技をする姿が見られた。



この経験を英語活動と結びつけることで、

- ・言葉の違い
- ・文化の違い
- ・人の個性の違い

に対する肯定的な理解へとつながったようだ。

すなわち本活動は、色の探究を通して「違っていい」「様々な個性があっていい」というダイバーシティ教育の基礎を育むことが出来たのではないかと考える。

また、外国人講師によるオールEnglishの活動は、単なる英語教育ではなく、「異なる言語を話す人と関わる経験」そのものとして、子どもたちにとって国際理解の実体験となった。

そこから、

「世界には様々な言葉がある」「違う言葉でも意味は通じる」という理解が自然に育まれる。さらに、外国人講師との関わりを通して、「見た目や言葉が違っても一緒に遊べる」という経験を積み重ねた。

これは、将来の多文化共生社会において必要とされる

- ・他者理解
- ・受容性
- ・コミュニケーション力

の基礎となるものと考えた。

人はそれぞれ得意な分野は異なるので、それぞれが得意な分野を活かしてもらいながら、子ども達が喜ぶような活動をコーディネートすることも、保育者の役割であるように感じた。

子ども達の変化と成長の内容に関しては、自由な創作活動とグループ活動の役割が大きかったように感じる。

今年度は『色に関する探究活動』を活動のテーマに設定し、すくわくプログラムを進めて行く中で、子ども達それぞれが絵の具やクレパス、色鉛筆やマーカーなどの様々な素材に触れながら、自由に創作活動を何度も行った。その中で、素材と向き合いながら子ども達なりの発見をしている様子が見受けられた。

また、年長を中心としたグループ活動も活動の中で何度も取り入れたが、それが普段の生活や遊びの中でも生きてきて、より良い集団づくりを行うことができた。

その中で、子ども達はケンカもするし、仲直りもするし、色に関する様々な発見もしていた。保育園という小さな社会の中で、人間関係の土台づくりを行い、子ども達それぞれが4月当初の様子よりも頼もしくなっていく様子を感じることができた。

子ども達の成長を見守ることができる点に、保育者としてのやりがいを感じる。今後も子ども達の豊かな感性を大切にしながら、その成長を見守っていくことができるようにしていきたい。